

「泡瀬の由緒ある古い井戸について」

泡瀬誌（昭和63年発行）による

- 村の東端近く・・・海石で積み上げられている古井戸。

⇒⇒この辺一帯の目印になり、

「次良井（ジラーガー）」と呼ぶ。

（この名の由来は泡瀬の先人である「思次良金」の飲んだ井戸ということから、「次良井」となった。）

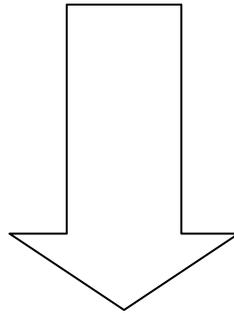
- 内島のメーヌお嶽北側の井戸・・・「産井泉（ウブガー）」。

⇒⇒子供が生まれると「ウビナデー」に使う水は、ここで汲んで持ち帰っていた。

（共同井戸）



戸数が増加

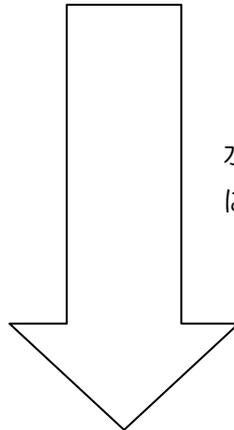


- 新しく東（アガ）りのお嶽近くに共同井戸造成・・・「ミー（新）井泉（ガア）」

（飲料用の共同井戸としての使用）



水源がいつまでも確保されるために、井戸の周囲に広々とした字有地の場所を設ける。



- 「カーヌ毛（芝生地帯）」

⇒⇒水量豊富で、枯れることのない泡瀬唯一の水源。



沖縄市には、ところどころに、琉球石灰岩の露出した場所が見られます。場所によっては、カルスト残丘となっており、植物が繁茂しています。この琉球石灰岩は、大昔に海の中で堆積してできた岩石で、多くの穴が開いており、雨水をよく通します。この琉球石灰岩とは違って、沖縄本島北部の山々でよく見られる赤土は、主に泥岩であり、雨水をほとんど通しません。豊富な雨は、琉球石灰岩を通して、細かなゴミなどはきれいに除去されて、泥岩の表面を通りながら、ところどころで出てきます。それが、湧水です。下のイラストは、沖縄市の地形をおおまかにイメージして作図しました。

